



団体名 アジア子ども美術協会（ACHAA）

事業名 アートと共生社会を繋ぐ～子ども KARIYA 場（BA）～

【令和6年度まちづくり活動】

事業の紹介



補助金額 4.9 万円／総事業費 9.8 万円

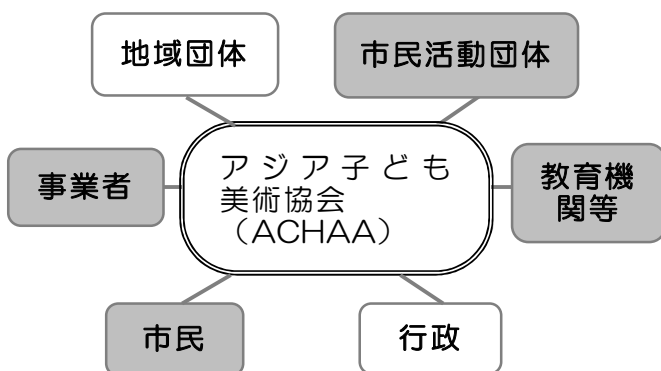
障がいの区別なく、全ての子どもたちが好きな絵を描く活動の機会を提供するため、多様性を互いに尊重し認め合い、誰ひとり取り残されることなく参加できる造形活動です。各種作品を展示したり、ワークショップを行い、障がい児者への理解啓発の活動にもつなげることを目的としています。

「かりや夢ファンド補助金」は、画材、展示用の額装や会場使用料として活用されました。



【左上：造形クラブ その他、アジアの子どもの絵画展展示】

協働の役割分担



市民活動団体 ＜役割＞	WAFCA 〈ワークショップ実施場所提供〉 刈谷市国際交流協会 〈イベント出展〉
事業者 ＜役割＞	とうふや豆蔵 刈谷銀座店 〈作品展示スペース提供〉
教育機関等 ＜役割＞	中部大学 〈アートキャラバンへの協力〉
市民 ＜役割＞	造形教室への参加、 ギャラリー展示作品の観覧

取組みの流れ

こんな想いでスタートしました

・「だれ一人取り残さない」というソーシャルインクルージョンの理念を広めるため、全ての子どもたちがそれぞれの能力を最大限に発揮し自信を持って、社会参加できるよう、アートによる多様性社会の実現を目指して活動を始められました。

・代表の藤原さんは WAFCA 理事を務めており、コロナ禍後、かつての拠点である「ふれあいプラザゆうきそう」にて、造形教室を3名から開始しました。

こんな準備をして取り組みました

・とうふや豆蔵（刈谷銀座店）にて常設展やワークショップを行い、活動発表と広報活動を行いました。定期的に作品を入れ替えて、街行く人に多くの作品を楽しんでいただきました。

・藤原さんは在職中からタイの障がい児教育に携わり、タイの教育関係者と親交が深いことから、2025年3月にタイ美術館で展覧会を開催。展示作品の一部はギャラリーで展示していました。

こんな点を工夫しました

・画材には不要になったダンボールを用いたり、牛乳パックをパレットとして使用したりするなど、SDGsについて子どもたちに伝えています。

・子どもたちみんなと一緒に作品を作り上げる場を心がけています。

・障がいの有無に関わらず、同じ空間にいてお互いを意識できる経験を、小さな時からすることが大切だと考えています。

●「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。

★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です。

【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！>>



こんな活動をしました！

「造形クラブ」

日時：令和6年11月9日（土）11～12時

場所：WAFCA 車いす工房

参加者：10名（親子3組）

内容：毎月1回第3土曜日10時～15時に、刈谷市を中心とした子どもたちと家族向けに開催。毎回興味を持ってもらえるテーマで造形活動を実施しています。この日は3組の親子が参加し、小さく切ったペットボトルキャップを利用した工作と、廃材を活用したクリスマスの飾りを各々作成していました。製作への参加は強制ではなく、各自自由に過ごしていました。また、かりまるバスのラッピングを手掛けられた、作家の川部さんから、絵のポイントや、好きな動物についてお話を伺いました。

「アジアの子ども絵画展」

日時：令和7年2月28日（金）

15～16時15分

場所：とうふや豆蔵 刈谷銀座店「豆蔵ギャラリー」

内容：多くの子どもたちの生き生きした作品が飾られていました。中にはタイのお友だちの絵もあり、活動がタイとの繋がりから始まったことを知ってなるほどと納得しました。日本だけでなくアジアの子どもたちが幼い頃から貧困や障がいについて正しく理解し、共に助け合って生きる心を育むことが平和で豊かなアジアの共生社会を目指す第一歩であるという理念を、長年障がい児教育に携わってこられた藤原さんが熱く語ってくださいました。

こんな効果が生まれました

- ・始めは紙面のすみっこに小さな絵を書いていた子が、回を重ねるうちに画面いっぱいにのびのびと書けるようになりました。
- ・多動の子が、絵筆を持つとじっとして書くことに集中できました。
- ・ほめられることにより、ますます自信を持って描くことができるようになっていきます。

こんな課題がありました

- ・2022年中部大学で開催した「KASUGAI インクルーシブアートキャラバン」では、応募期間後半になっても応募者が少なく、スタッフや講師の方から個別に声掛けをして何とか集めることができました。
- ・作品展示を市美術館で予定しましたが、作品数に対して会場が広すぎたため断念しました。常設展示の豆蔵ギャラリーも閉鎖となり、展示スペースの確保が課題です。

今後に向けて

- ・障がいのある方が参加しやすい環境を整えることが大事です。
- ・アートキャラバンのように、参加時間が長くなるような場合は、途中で気分転換できる工夫が必要。
- ・参加したお母さんたちに運営をお願いし、「自分たちで決めていく」ということを伝えていきたいと思います。

参加者の声

〈ギャラリー見学者〉

- ・多様性を認め合うための素晴らしい企画だと思います。
- ・支援員として一緒に過ごした二人の作品に出会えて胸が広がります。もっと作品を見てみたいです。
- ・この絵を絵ハガキやTシャツにしてくれたら、ぜひ購入したいです。
- ・カラフルな色使いがとてもきれい！

主催団体の声

- ・お子さんたちは楽しく参加して好きな絵をたくさん描いています。
- ・一方、親御さんにとっては悩みを相談したり、ゆっくり過ごしたりできる息抜きの場所ともなっている様です。

取材を終えて…まちコの感想

- ・自腹を切ってタイや日本の子どもたちのために奔走されているACHAAのみなさんに本当に感動しました。ご苦労は多いですが、やはり、子どもたちの笑顔に報われますよね！やめられないですよ！（鈴木小枝）
- ・世の中にある偏見や差別が、一緒に作業することで分かり合えたり、描くことで自信を持たせることの尊さに触れました。（鈴木勉）

ご感想や
「参加したよ」等は
こちらから▼

